

写真甲子園2018を終えて

愛媛県立今治北高等学校大三島分校

大林 桃乃 三川 真央 金子 空之新

四国ブロックの出場が決まってから、私たちは毎日一生懸命練習をしてきました。放課後になると毎日プレゼンの練習を行いましたが、先生から毎回厳しいダメ出しを受け、何度も涙する辛い日々が続きました。でも、そのおかげで四国ブロックでは自信を持ってプレゼンすることができました。ブロック大会では残念ながら代表校に選ばれることができませんでしたが、2日後の6月18日に今年から設けられた選抜枠で本戦に出場することが決まりました。

大雨や熱中症などトラブル続きで十分な練習ができないまま、あっという間に迎えた本戦。私たちが想像していたより遙かに過酷で、ファースト・セカンド審査会ではみんなの意見もまとまらず、思うような写真が撮れませんでした。特にセカンド審査会では審査していただいた先生方からかなり厳しい御講評をいただき、また他校のレベルの高い作品を見て追い詰められました。そこで、今まで自分たちが頑張ってきたのは何かという原点に戻ろうと考え、みんなで遅くまで話し込み、「自分たちにできることをしよう!!」と吹っ切ってファイナル審査会に臨んだところ、みんなが納得のいく作品ができました。審査員の方々にも褒めていただけたのが嬉しかったです。

この1週間は、今までの人生で体験したことがないほど、本当に濃い時間だったと感じています。他校の作品は、私たちには思いつかないような発想、構図のものが多く、こんな撮り方もあるんだ、今度撮ってみたいなど感じるものばかりでした。審査員の方々に指摘された部分や褒められた部分はこれからファインダーを覗いた時、常に頭の中に入れておいて改善していきたいなと思います。ありがとうございました。

1年 三川 真央



東神楽町のひまわり畑で

私たちは、写真甲子園を通して普段の部活では体験できない経験や交流をすることができました。北海道の大自然の中で、優しい方々に出会い撮影ができた

ことが嬉しかったです。撮影に行くたびに自然の美しさに感動し、その行く先々でたくさんの人と出会い、快く撮影を受け入れていただきました。「写真甲子園では、始まりは戦いでも出口は感動」という言葉があるということを開会式で聞きました。最初に聞いたときはいまいち実感が湧かなかったのですが、大会が終わった後に考えてみると本当にその通りだと思いました。初めて会った選手の人たちでも、大会を終えると初めて会ったとは思えないほど仲良くなれ交流を深める事ができました。多くの感動を与えてくれ、自分たちを大きく成長させてくれた写真甲子園に感謝しています。



同宿の小牧南高校さんと記念撮影

1年 金子 空之新

今回、写真甲子園に出場して一番感じたことは、「チーム」っていいなということです。お互い思うように写真を撮れない時もありました。でも、励まし合う仲間がいたから、元気をもらえる仲間がいたから、私たちはこの写真甲子園を乗り越えることができました。初出場ということもあり、不安も多かったのですが、このチームで戦えたことを嬉しく思います。

私たちは当初この3人でチームを組んでいたわけではなく、事情があり北海道で一緒に戦うことができなかつた子がいます。だから、正直今までのメンバーではなくなつてうまくまとまるのか、意見が言い合えるのかということが心配でした。ですが、私たちは「その子の分まで頑張る！」と決め全力で写真を撮りました。結果は敢闘賞でしたが、終わった後の達成感が何とも言えませんでした。今回出場できなかつたチームメイトにもこの思いを味わって欲しいと強く感じました。

全国の写真が好きな方との繋がりができたこともこの写真甲子園のおかげです。スタッフの方や東川町の皆さん、ホストファミリーの皆さん、審査員の先生方、他校の皆さん、たくさんの方にお世話になりました。本当にありがとうございました。私は今年で卒業ですが、後輩たちには来年もまた出場できるようこれからも頑張つて欲しいと思います。



ホストファミリーの正垣さん一家と

3年 大林 桃乃